

## 令和4年度 東京都立多摩科学技術高等学校 学校経営報告

東京都立多摩科学技術高等学校

校長 森田 常次

## 1 令和4年度学校経営計画の実施結果(概要)

スクール・ミッション「大学進学に向けた共通教科指導に加え、科学技術の指導を行うことで、未来の科学技術者の基礎を作り、世界で活躍する科学者・技術者を育成」を実現するため、次の4点を重点目標として学校経営を行い、研究活動推進および理系進学校としての体制基盤確立を図った。

- (1) 希望の理系大学進学を実現させる、進学校としての教育内容と指導を充実させる。
- (2) 科学技術への関心と基礎力育成のための本校ならではの教育内容を充実させる。
- (3) 心豊かで責任感と主体性に富む生徒を育成するための指導内容を充実させる。
- (4) 本校志願者数(適正入選倍率の確保)を確保する。

今年度も、感染症対策を講じながら様々な教育活動を実施した1年であった。課題研究・卒業研究をとおり、外部団体の研究発表会に数多くの生徒が参加することにより、研究内容を深めさせることやプレゼンテーション能力の向上が図れた。また、文部科学省指定スーパーサイエンスハイスクール(以下、SSH)第Ⅲ期の初年度、東京都教育委員会指定の進学指導推進校最終年度であり、これらの事業を活用して教育活動の充実を図ってきた。

第十一期生の国公立大学・大学校合格は60名以上の目標で取り組み、結果は東京工業大学や旧帝大を含め57名となり過去最高の結果となった。既卒者20名の合格者を含めると77名が国公立大学に合格した。次年度は、本校の学習指導と科学技術の体験を通して成長させる強みを活かした教育をさらに充実させる必要があると考える。

## 2 今年度の取組と自己評価

本年度の活動目標と主要方策別に振り返りを行うとともに、次年度取り組むべき課題を整理した。

## (1)「教育活動の目標と方策」に対する結果と次年度への反映

活動目標	本年度(令和4年度)の主な方策	取組結果(○:達成、△:一部達成、×:未達成)	次年度への取組課題
学習指導の充実	①学力向上に向けた組織的な学習指導 ・模試分析に基づいた目標設定と指導内容・方法の工夫	【○】 ・模試分析の結果を進路指導部及び該当教科が職員会議で発表することで全職員による共通理解を得ることができた。	・今年度の改善を引き続き実施し、分析結果をその後の授業に活かす工夫を行う。
	②自主学習の促進 ・自宅(授業外)学習の実態把握および動機づけ	【○】 ・学習時間調査により、1、2年生の平均自宅学習時間は〇〇時間であった。	・計画的に学習を進めることができるように指導する必要がある。
	③教育課程及び学力スタンダードの円滑な実施 ・観点別学習状況の評価に基づく授業改善	【○】 ・観点別評価について、検証を行いながら円滑に実施することができた。	・観点別評価を授業の改善に生かす必要がある。
	④授業力の向上に向けた取組 ・大学入試問題の分析(5校以上)と生徒への還元 ・指導教諭の授業参観等を活用した教科会の充実	【△】 ・大学入試に対応するため、1人5校以上の入試問題分析を行い生徒に還元した。 ・教員相互の授業参観が十分に実施できなかった。	・次年度は、教員相互の授業参観やその研究協議を計画的に実施する必要がある。
	⑤課題研究、卒業研究の指導の充実 ・進学(AO、推薦)の強みとなるテーマと指導の徹底 ・科学技術アドバイザー制度の活用推進	【○】 ・感染症の影響はあったが、工夫して研究指導を充実させることができた。 ・アドバイザー制度を活用し、科学技術への興味関心を向上させることができた。	・研究に関する論文作成について検討し充実を図る。 ・アドバイザー授業・講演の内容を充実させる必要がある。
	⑥教科横断的な視点に立った教育内容の充実 ・クロスカリキュラムの開発・実践と評価	【△】 ・分野等融合探究に関する検討し、次年度の方向性を決めることができた。	・教育課程への位置づけと内容の確立が必要である。
	⑦科学技術に関する指導の充実 ・「先端技術と社会」及びカリキュラム開発の総合研究 ・第Ⅲ期SSH事業の充実	【○】 ・オンラインでの発表や交流を多く実施することができ、海外校との交流も増やすことができた。	・共通教科の教員が指導する探究活動の導入を図る。

活動目標	本年度(令和4年度)の主な方策	取組結果(○:達成、△:一部達成、×:未達成)	次年度への取組課題
	⑧国際体験 ・海外研修や国際体験の実施	【△】 ・新型コロナウイルス感染症の影響により海外研修を実施することはできなかったがオンラインによる交流を数多く実施できた。	・海外との交流を継続するとともに共同研究に向けた取り組みを開始する。 ・JETを活用した英語研修実施。
	⑨英語教育推進校として4技能向上に向けた取組 ・パフォーマンス評価等の充実・改善	【○】 ・JETを活用した英語科教員による指導により4技能を向上させることができた(GTEC)。	・使える英語力の向上を推進するとともに、受験に対応できる英語力を身につけさせる必要がある。
進路指導の充実	①進学指導校内体制の充実 ・入学から受験までの総合的な進路指導の充実 ・教科代表者会議を活用した進学指導の充実	【○】 ・進路部・学年を中心に組織的な指導を行った。国公立大57名の現役合格者を出すことができた。	・模試分析会の充実を図るとともに教科代表者会議の活用注力する。
	②生徒の進路実現に向けた意識(1・2年生)の向上 ・進路講演会や成功事例紹介等の活用	【○】 ・外部講師を招聘して進学意識を高める講演会を実施した。3月には卒業生による合格体験談講演を実施し意欲の向上を図った。	・合格体験講話など、進学意識を継続する取り組みを行う。 ・東京農工大学との連携を活用し大学研究室訪問などを実施し、進学意欲の向上を図る。
	③進路指導を支援する体制の構築と活用 ・探究活動を活かすための大学研究室調査(5つ以上) ・担任・進路・教科の情報共有による個別指導の充実	【△】 ・大学研究室調査は、研究活動の指導に時間かたられ十分に行うことができなかった。 ・進学指導検討会を実施し、情報共有を図るとともに個別指導に活かした。	・教員研修ができるための時間確保を図る必要がある。 ・進路指導検討会の充実を図る。
生活指導の充実	①「あいさつの飛び交う学校」定着と取組の推進 ・教職員による率先垂範の徹底	【○】 ・朝の健康観察を兼ねての挨拶指導により、定着が図られた。	・あいさつの飛び交う学校を目指し、教員による率先垂範の徹底を図る。
	②「けじめのある気持ちの良い学校」全職員一貫指導 ・遅刻防止指導、身だしなみ指導	【○】 ・概ね1人平均3回以内を達成することができた。	・次年度も引き続き対策を徹底する。
	③体罰の根絶に向けた取組の推進 ・教科会及び生活指導部を中心とした体制の構築	【○】 ・校内研修の充実と教員間の意識の向上が図れた。	・継続する。
	④いじめに対する総合対策の実施 ・学校いじめ対策委員会を中心とした指導体制の確立	【○】 ・指導体制を確立することができた。	・継続する。
	⑤自殺対策に資する教育の推進 ・自殺総合対策大綱に基づく指導の実施	【○】 ・日頃の生徒観察やアンケート調査を通して指導を行うことができた。	・継続する。
	⑥小金井工業高校との連携充実 ・生徒指導や校内美化環境の情報共有と円滑な運営	【○】 ・年度当初に共有するクラス担任の打合せや毎日の管理職の打合せ等を通して、大きなトラブルもなく連携が図れている。	・管理職による毎日の打ち合わせを継続し、情報共有の徹底を図る。
特別活動・部活動の充実	①外部発表機会の活用と発表内容の充実 ・計画的な取組の実施 ・高い目標への挑戦と指導の実施	【○】 ・オンラインだけでなく対面の研究発表会が開催されるようになり、様々な形態の発表会に数多く参加し、発表件数が増えた。	・「課題研究」「卒業研究」や部活動を充実させることで、研究活動を促進し、外部大会でその成果を発表させる。
	②科学リテラシー振興拠点として地域連携の充実 ・科学の祭典や小中学校との連携	【×】 ・新型コロナウイルス感染症の影響により地域連携を進めることができなかった。	・コロナ禍における地域連携の方法を模索し実施する。
	③科学技術系高校の特色を生かした学習等の実施	【○】 ・コロナ禍ではあったが、オンライン配信等工夫しながら文化祭や体育祭を実施し特色ある活動ができた。	・感染症対策を講じながら、本校の特色を生かした学習活動を充実させる。
	④部活動や生徒活動の活発化(特別推薦の活用)	【△】 ・感染症の影響により活動が制限されることが多く満足な活動ができない状況が続いた。	・部活動が実施できることを期待するとともに支援体制の充実を図る。
	⑤生徒の体力向上の推進 ・東京都統一体力テストの実施と施策の活用	【○】 ・体力テストを確実に実施するとともに、授業において基礎体力向上に取り組んだ。	・基礎体力の向上を図るとともに、生涯スポーツとしての意識付けを図る。
	⑥感染症対策を講じた学校行事の実施 ・生徒の力で運営する体制の構築	【×】 ・感染症対策を講じて、生徒主体の体育祭を実施することができた。	・部活動や委員会を活用し、生徒の力で運営する体制の再構築を図る。

活動目標	本年度(令和4年度)の主な方策	取組結果(○:達成、△:一部達成、×:未達成)	次年度への取組課題
保健活動の充実	①スクールカウンセラーとの連携による指導の充実	【○】 ・カウンセラーと担任の連携が図れており、課題の把握に努めている。	・継続する。
	②特別支援教育研修実施と職員の意識啓発 ・教育相談研修実施と意識啓発	【○】 ・教育相談担当とSC、養護教諭との連携を図ることができた。	・職員の意識啓発及び共通理解のための研修の充実を図る。
募集・広報活動の充実	①令和3年度取組内容を基にした活動の継続と見直し ・中学訪問、生徒訪問、中学校教員対象説明会、塾対象説明会、体験イベントなどの積極的な実施 ・「お客様志向」の徹底	【○】 ・人数を制限した中での説明会の実施、ホームページ上で動画を公開することで多くの中学生や保護者に本校の教育について知ってもらうことができた。	・学校ホームページを活用した広報活動さらに充実させる。
	②プレゼンテーション資料などの校内共有 ・全職員による共有の徹底 ・データや資料の活用、メッセージの一貫性や整合性	【△】 ・学校見学会・説明会に使うスライド内容の充実及びメッセージの一貫性を図った。	・継続する。
	③ホームページの充実 ・改定、更新頻度の確保	【△】 ・ホームページの改修に伴い、更新回数は減少したが、改修後は適時、更新ができた。	・本校を希望する生徒や保護者の知りたい情報や在校生に必要な情報を掲載する必要がある。
情報管理の徹底	①校内個人情報管理基準の運用徹底 ・「見える管理」「個人情報の意識啓発」の徹底	【○】 ・規定に従って教育活動を行うとともに、研修会を通して適切に運用できた。	・特に紙媒体の情報について管理を徹底する。
学校経営・組織体制の充実	①業務の効率化を図り、働き方改革を推進 ・定時外在校時間80時間以上の職員をゼロにする	【×】 ・定時外在校時間が基準を超え教員が数名いた。	・さらに業務の見直しを実施し効率化を図る。
	②服務事故ゼロの校内体制の確立 ・体罰等に関する服務に係る研修会の実施	【○】 ・規定に従って教育活動を行うとともに、研修会を通して適切に運用できた。	・人権意識をもった指導を充実させる必要がある。
	③小金井工業高校との日常連携の充実	【○】 ・年度当初クラス担任打合せを行うとともに、日常連絡を密にし、情報交換を行った。	・2校の教育活動が円滑に実施できるよう、管理職による毎日の打ち合わせや施設使用に関する情報共有の徹底を図る。
	④節電の取組の徹底 ・照明や空調の管理の徹底	【○】 ・計画に沿って実施できた。	・電力デマンドモニターの警報を活用し、節電対策に取り組む。
	⑤校外との交流による信頼される学校づくり	【○】 ・感染症の影響によりオンラインシステムの活用が図られ、海外を含め多くの学校との交流が実施できた。	・引き続きオンラインを活用した交流を発展させる。
	⑥経営企画室の経営参画 ・担当者業務情報連絡会や研修会を通して、進行管理を適切に行うとともに、円滑な教育活動に努める	【○】 ・朝礼により進行管理を適切に実施し遅滞なく教育活動を行うことができた。	・経営企画室職員の入れ替わりに向け、打ち合わせを通じた情報共有の徹底を図る。

(2) 令和4年度重点目標への取組と自己評価

○ 希望の理系大学進学を実現させる進学校としての教育内容と指導の充実

理系大学への進学指導においては、共通テスト5・7型受験者が増加するとともに、国公立大学合格者の目標60名に対して55名と届かなかったが過去最高の結果であった。

項目	目標値	評価
① 現役国公立大学合格者数	60名以上	概ね達成(56名)
② 四年制大学進学率(4年制大学現役進学者数/卒業者数)	75%以上	概ね達成(74.6%)
③ 共通テスト(5・7型)受験率	50%以上	達成(77.1%)
④ 共通テスト得点率 80%以上	10名以上	未達成(6名)
⑤ 自主学習時間(1・2年生共通)	2時間/日	達成(2.1時間)
⑥ 全国模試(3年次)偏差値 57以上	40名以上	達成(53名)
⑦ 教科代表者会議・模試分析会等の実施回数	3回	達成(3回)
⑧ 大学入試問題の分析の教員一人当たりの大学・学部数	5校	概ね達成(個別に実施)
⑨ 相互授業観察の教員一人当たりの平均回数	2回	未達成(0回、個別に実施)

○ 科学技術への関心と基礎力育成のための本校ならではの教育内容の充実

オンラインや参集型の研究発表会・コンテスト等が本格的に再開したため、卒業研究・課題研究の成果を多くの生徒が発表し、優秀な成績を修めた生徒もいた。今後は、発表する機会を増やすとともに、研究内容を深めるために研究の途中で研究者とのディスカッションの場を数多く提供する必要がある。

項目	目標値	評価
⑩ 外部研究施設や大学などへの訪問体験回数(2年生の平均)	3回以上/年	未達成(約1回)
⑪ 校外発表件数	300件/年以上	概ね達成(230件)

○ 心豊かで責任感と主体性に富む生徒を育成するための指導内容の充実

生徒の生活態度は良好で、部活動については、文化系部活動が非常に盛んである。

多数の生徒は、規則正しい生活を送っているが、遅刻の多い生徒が一部にみられた。単なる平均の回数にとらわれるのではなく、様々な側面から生徒一人一人に応じた指導をする必要がある。

項目	目標値	評価
⑫ 遅刻累計(生徒一人当たり)	3回/年以下	未達成(約4.02回)
⑬ 部活動加入率	85%以上	達成(92.2%)

○ 本校志願者数の増加(適正入選倍率の確保)

推薦 1.97倍、一般 1.46倍と、昨年度を下回る倍率となった。見学会、説明会やホームページでの説明動画配信などにより、本校の特色や学習活動について説明した結果、希望する生徒が出願したものと考えている。

次年度も引き続き広報活動を充実させることで、本校への理解をさらに高めるとともに、本校を希望する生徒を確保する。

項目	目標値	評価
⑭ 生徒の満足度 全学年評価平均値(そう思う+やや思う)	80%以上	達成(81.2%)
⑮ 入選倍率(推薦、一般)	2.0倍以上	概ね達成(推薦1.97倍、一般1.46倍)

○ 適正な学校運営

項目	目標値	評価
⑯ 服務事故の件数	0件	達成(0件)
⑰ 服務に関する研修会の実施	3回以上	未達成(0回)

3 次年度以降の課題と対応策

次年度は引き続き進学指導推進校としての取組やSSH事業の更なる充実を図っていく。